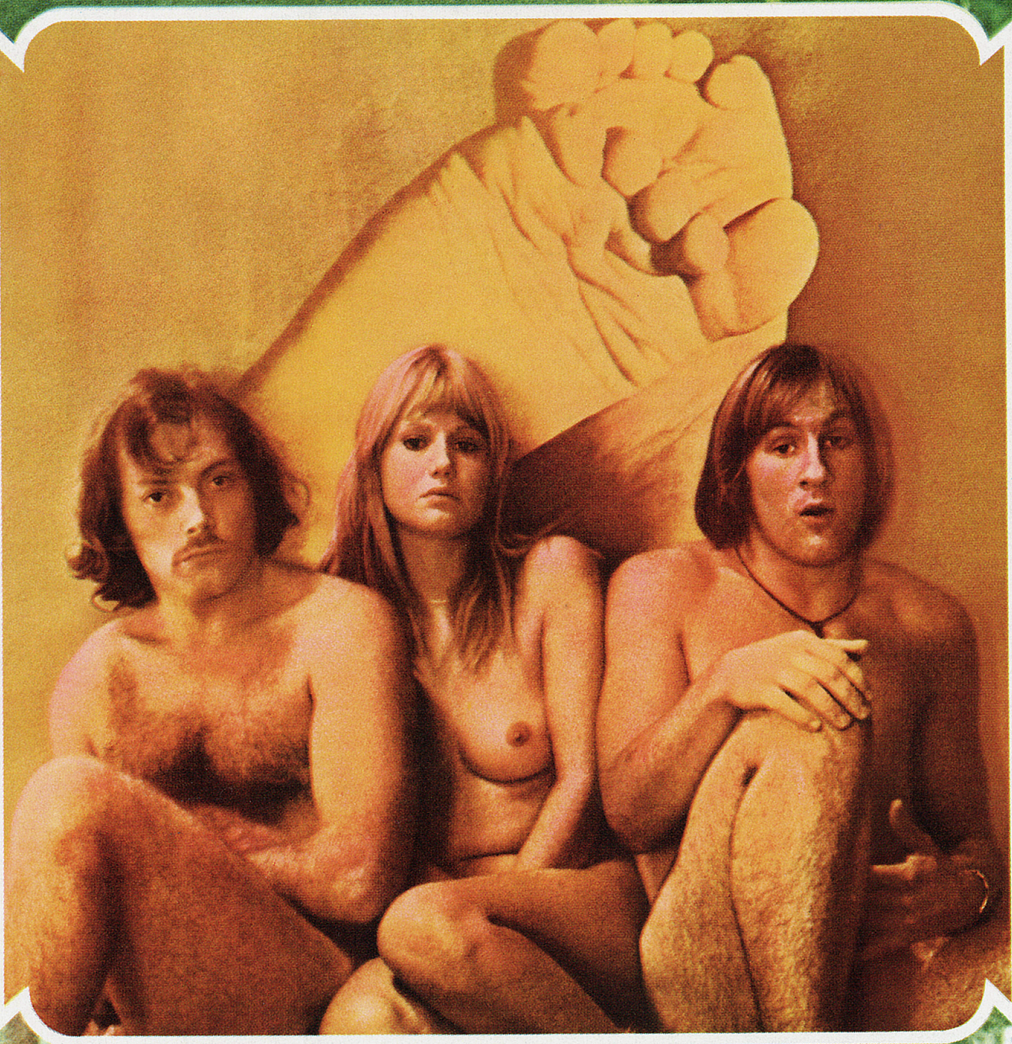


どのみち人生 男と女ノくどくど言わずやることあひつ

そこから生れた真実だけが俺たちノ人呼んでそのノ野郎ノが求める青春だノ

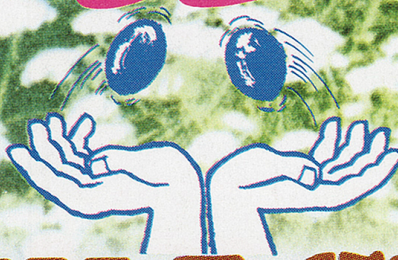
既成のモラルを根底からくつがえたこの鮮烈な生き方に大人たちは真つ青ノ本場フランスでは「エミール夫人」と人気を二分した衝撃の話題作ノ



カラー作品(フランス映画)

●バルスーズとはフランス語で“睾丸”すなわち男性のキ○○マを意味するスラング

# バルスーズ



ジェラルド・ドパルデュ  
ミウ・ミウ  
パトリック・ドペール  
ジャンヌ・モロー / ブリジット・フォッセー  
クリスチャン・ミュレール / ミニエル・ペーレロン

監督ベルトラン・ブリエ  
製作ポール・クロードン / 原作ベルトラン・ブリエ (二見書房刊)  
音楽ステファーン・グラッペリ (サントラ盤 / コロムビア・レコード)  
アンスタウン・アルセン (歌 - コロムビア・レコード)

# LES VALSEUSES



## ★スタッフ

製作……………ポール・クロードン  
 監督……………ベルトラン・アリエ  
 脚色……………ベルトラン・アリエ  
 ……………フィリップ・デュマルケ  
 原作(小説)……………ベルトラン・アリエ  
 (二見書房刊)  
 撮影……………プリュノ・ニュイッタン  
 音楽……………ステファヌ・グラッペリ  
 (サントラ盤&アンヌ・アンデルセン歌=コロムビア・レコード)

## ★キャスト

ジャン・クロード……………ジェラルド・ドバルデュー  
 マリー=アンジュ……………ミウミウ  
 ピエロ……………パトリック・ドベール  
 ジャンヌ……………ジャンヌ・モロー  
 若い母親……………ブリジット・フォッセー  
 ジャック……………ジャック・シャユ

《上映時間—1時間58分》



### ●「エマニエル」はもう古い——「バルスーズ」見たか？

がパリの若者たちの合言葉！

「バルスーズ」という映画がパリで「エマニエル夫人」の記録を破り九万人を動員して大ヒットになった。「エマニエル」はもう古い！「サンデー毎日」(三月三十日号)は、「フランス本国では現代の無軌道青年を称してバルスーズ・ゼネレーションなる流行語まで生み出した」といちはやくこの映画を紹介した。

バルスーズとは何か？フランス語で男の睾丸を意味するスラングで現代の非行青年が強姦こそ生きがいと信じて展開するすさまじくも壮烈な生きざまを描いてセンセーションを起こした一篇である。ことに強烈なSEX描写が世界各国で論争を起こしているが、これはボルノではなく、真正面から現代若者のSEXをとらえた芸術的にも非常にすぐれた作品で、「ゴダールの「勝手にしやがれ」の70年代版であり、ヌーベル・バーグ以後に出現したもっとも注目すべきフランス映画だとフランスの批評家の間でも高く評価されている。

バルスーズ・ゼネレーションという流行語を生み、「バルスーズ」見たか？がヤングの合言葉になって若者たちの間に一大反響を巻き起こしたこれは衝撃の問題作である。

### ●上映は是か？否か？その強烈なSEX描写！

問題シーンその① 電車内でのSEX

ジャン・クロード(新人ジェラルド・ドバルデュー)とピエロ(こちらも新人パトリック・ドベール)は、女と見れば二人で尻を追っかけ手あたりしだいに強姦し、路上のオートバイや自動車を盗んでは逃走する非行青年だ。たまたま車を盗んで逃げるところを車の持ち主に撃たれ、ピエロは睾丸に傷を負う。外科医のもとで治療を受けるが、婦人には医師を脅迫して金を盗む二人。ピエロはそれ以来、インポになっている。

また車を盗もうとして警官に追われた二人は通りがかりの電車に飛び乗る。車内には一人だけ赤ん坊に乳をのませている若い母親が乗っていた。二人はこの母親を車内で犯そうとするが、ピエロはインポ。この若い母親の乳房に吸いつく——この若い母親をなんと「禁じられた遊び」の名子役から成長したブリジット・フォッセーが大胆不敵な演技で演じて大問題。「エマニエル夫人」の飛行機内のファック場面以上の大騒ぎになった。

### ●問題シーンその② 男二人対女一人の乱交

二人は、ピエロを撃った男に復讐しようと彼の情婦マリー(燃えつきた納屋)に出演した期待のセクシー新星ミウ・ミウ)を襲うことになるが彼女は不感症。インポもなおったピエロとジャン・クロードはあらゆる性体位でマリーをせめるが、彼女はいつかこうに感じなく男二人の方がはてしてしまう。この乱交描写がもっとも問題となったところだ。

### ●問題シーンその③ ジャンヌ・モローが見せる 衝撃のSEX自殺！

二人は刑務所から出てきた女はSEXに飢えていて簡単にやらしてくれろといひ、ある刑務所の出口に張りこむ。トランク一個かかえて出てきた女ジャンヌ——これを「死刑台のエレベーター」の女優ジャンヌ・モローが演じる。彼女はホテルで二人の男と乱交を重ねた夜、すてにメンズもなくなった人生のたそがれに絶望し、マタをひらいて女陰に拳銃をつっこむと自分の子宮を撃つて自殺する。この衝撃場面には女性観客が悲鳴をあげ失神者も出てモローの大熱演がスキヤンダルを起こした。

### ●問題シーンその④ 映画史上最高のカー・セックス描写

ジャンヌを殺したと疑われるのを恐れた二人はマリーのところにかくれる。ジャンヌの息子ジャックも刑務所におり、出所した彼のめんどろをピエロたちは見ることにになり、彼に不感症のマリーをあてがう。ところがジャックによってマリーの不感症がなおったのだ。マリーがオルガスムスに絶叫するところも迫真のセックス描写だが、それ以来、マリーは二人にセックスをアニマルのよういどみ、車の内ですさまじいカー・セックスを展開する。おそらく映画史上最高のカー・セックス描写といえる激しい描写で、この部分も大問題になった。

### ●問題シーンその⑤ 白昼の太陽の下で展開する

処女膜破りの乱交儀式

マリーを加えた三人が、川辺でピクニックしている親子の車を盗もうとする。十代の娘ジャクリーヌは、両親に反抗し「私も一緒に連れて行って！」といひだし、三人に同行し「私の処女を犯して！」といひだす。真昼間の太陽の下で男一人、女二人が乱交——ジャクリーヌの処女膜破りの儀式を壮大に展開するクライマックスこそ、フランスの大人たちと若者たちの間で大論争となったポイントだ。

### ●青春のすさまじい燃焼！

しかしこれはあくまでボルノではない。現代の若者たちの行き場のないらだち、悲しみ、怒りが燃焼している素晴らしい青春映画の傑作。三十代のベルトラン・アリエ監督は、「ピエロ」なんか知らないよ」という戦後世代の若者を描いた秀作で認められいまもっともフランスで期待されている新鋭だ。ステファヌ・グラッペリがバルスーズ・ルックと称して大流行し若い世代に強烈にアピールした。この映画こそまさにNOWな若者映画だった。

「バルスーズ」につく話題騒然のFOXの問題作！男はなぜグッチワイフに溺れたか？強烈なSEXの世界を描く

「等身大の恋人」近日大公開！

近日ロードショー

有楽町 **スバル座** (212) 2826

有楽町駅前(そごう側)有楽町ビル内